

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第三中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	○生徒評価はAで、94%の生徒が肯定的意見である。学校生活について生き生きと生活している生徒が多い。保護者、職員ともH28よりポイントが上昇している。 △分掌組織をさらに活性化させ、より計画的に教育活動を実施する。学校教育目標達成に向けた取組を広く公表する。生徒一人一人が輝き、笑顔あふれる学校を実現する。	A	・生徒評価が重要。生徒が肯定し学校生活を送れることができることに好印象を受けた。 ・学校教育目標に対して、すでにできている生徒が多く存在していると感じている。 ・職員で組織的に取り組んでいるが、一部足並みのそろわない面もある。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	○生徒、職員評価の肯定的意見がH28より上昇した。職員の意識向上により、生徒は安心して学校生活を過ごしている。 ○安全点検を定期的に実施した。計画的に施設設備の安全管理を実施することができた。PTA作業も地域の力を借りて、環境整備を実施した。 △保護者がより安心して子供を通わせることができるような取り組みを保護者、地域と一体となって推進する必要がある。	A	・必要に応じて名札を見せない工夫に配慮が見える。 ・校内外ともに未然の点検、情報の共有など職員間、保護者等とも継続的に努力していただきたい。 ・学期ごとに避難訓練を実施していることから災害に対応できる力が身につけていると思う。 ・安全点検も実施している。 ・大雨などの時の対応に心配がある。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	○保護者の肯定的意見が0.1ポイント、職員は0.3ポイント向上した。 ○毎時間、見直しと振り返りを実施し、学力の確実な定着を目指した。埼玉県学調や全国学調において埼玉県平均、全国平均を上回った。 △引き続き基礎学力を定着させ、「書く」学習と「考えを広げる」学習を教育計画に位置付ける。 △成績下位層の生徒の学力を保証する。計画的な補習体制の整備や家庭と協力した家庭学習の実施などを進める。	B	・学力が県、全国平均を上回ったこと。 ・家庭学習の実施を進めている点。 ・成績下位層のケアは継続的にご尽力いただきたい。 ・学力の二極化があることは仕方ないが、基礎学力を身に着けるには保護者の協力もある程度は必要だと思う。 ・学習におくれがちな生徒もいる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	○職員、生徒の肯定的意見がH28より0.3ポイント向上している。 ○職員は積極的にアクティブ・ラーニングを授業の中に取り入れ、主体的・対話的で深い学びが実現できるような授業運営を心掛けた。生徒は意欲的に授業参加している。 △校内研修をより充実させる。授業研究や教科部会を計画的に実施することにより学校課題を明確にし、各教科が連携して課題解決に取り組む。	A	・生徒が自由に意見を述べ、生徒意見をすぐに否定しない授業は伸び伸びしたよい授業であった。 ・アクティブ・ラーニングを取り入れて、発言しやすい状況を作り、より良い授業をしていると感じた。 ・努力していると思う。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	○職員、保護者、生徒の肯定的意見がH28より向上している。特に職員の肯定的意見H28より0.5ポイント向上している。 ○授業中の学習規律が確保され、落ち着いた雰囲気の中で授業が実施されている。 △三中の掲げる「自主自立の態度」の育成をさらに進める。自ら判断し、行動できるよう指導場面の工夫を進める。	A	・挨拶もできるし、教室も乱れていない。 ・学校を訪問した際、ほとんどの生徒があいさつしてくれる。 ・授業中の態度や行事の時も真剣に取り組んでいる。 ・生徒一人一人が自覚している。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	○職員、保護者、生徒評価とも肯定的意見がH28よりわずかではあるが向上している。 ○毎週教育相談部会、生徒指導部会を開き各学年の情報交換と指導方法等について確認できた。 △朝の活動を大切にし、全校で統一した指導を行う。授業規律”三中スタンダード”を確認し、共通理解のもと指導を行う。	A	・学校単位では難しいが、保護者、家庭と一体となった改善への取組をより強化していただきたい。 ・保護者、生徒アンケートの集計結果から判断しました。 ・一般の職員まで頑張っている。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	○職員、保護者、生徒がA評価。多くの活動場面を利用して効果的に運動量を確保することができた。進んで運動する生徒が多くなっている。 ○体育的行事を通して集団で成長できるような指導を実施することができた。 △少ない活動場所を計画的に活用して、引き続き安全への注意を十分にはらい、指導する。	A	・体育祭も生き生きと生徒と先生方の意思疎通が感じられた。 ・部活動など、土手を走っている姿も好感が持てる。 ・運動部活動が盛んである。 ・元気に取り組んでいる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	○体育科を中心にスポーツテストの分析を行い、体力向上策を立て計画的に取り組んでいる。 ○部活動指導では、各部の課題を共通認識した上で指導している。 △継続指導が必要な項目を確認し、指導方法の工夫改善に取り組む。さらに掲示やHPなどを活用して生徒の頑張りを示し、生徒の意欲を向上させて課題解決に取り組む。	B	・スポーツテストの分析を行い、向上策を講じた結果、改善が見られた。 ・部活動では、ガイドラインに等に基づいた運営をすることが難しい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	○学校行事の際、PTAを中心に取組への協力をいただいている。地域で活躍されている方を招聘した取組を実施することができている。 △学校からの情報発信を丁寧に行い、より一層の協力体制の構築が課題である。	B	・もっと地域の力を借りてもいいと思う。 ・部活動や三中ファームの指導は、地域の方でいいのではないかとと思う。 ・価値観が多様化する中でも、より広く地域や団体と連携を進めることができるのではないかと。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	○生徒、職員評価がH28よりポイントが上昇。各種講演会や、授業を計画的かつ効果的に実施することができた。 ○通学路安全点検を保護者(PTA本部)と協力して実施した。今後も状況に応じた判断ができる安全教育を実施する。 △保護者評価はH28より0.1ポイント減少。保護者が積極的に参加できる取組を工夫し、保護者、地域と連携して安心・安全な学校づくりを進める。	B	・保護者や地域に積極的に協力を呼びかけることも必要ではないか。 ・地域の学校見守りは、未然に事故を防ぐこともあるのではないかと。 ・美化活動に地域から100名近い方が集まって学校のために力を出してくれた。 ・見て見ぬふりをする方が多い。一声かけ、注意しあえばよい。

---

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満